

その他の食料品製造業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	3	17 ～ 18	製糖工場内ヤードでドラム脱葉機の修理を終り所定の場所に移動していた際、ドラム脱葉機のギヤを前進にしたにも係わらず後退したため、胸部をドラム脱葉機のレバーとヤード内の柱との間に挟まれた。	169	7	10 ～ 29
1999	4	7 ～ 8	事務所でタイムカードを打刻し、約10メートル離れた作業場へ、出荷場を横切って歩行していたときに、荷の積み込みのため倉庫のプラットホームに車両をつけようとして後進してきた2tトラックにひかれた。	221	6	30 ～ 49
1999	5	14 ～ 15	ダンプ置場に仮設の雨除けテントを設置するため、フォークリフトに大根用のパレットを取りつけてその上で作業を行い、次の場所に移動させるためにリフトを下げているときに乗っていたパレットが急に傾き、舗装面にパレットとともに転落した。	222	1	1～ 9
1999	2	15 ～ 16	砕氷塔のシューターを動かすウインチのワイヤロープを交換する作業で、砕氷塔の砕氷機下の作業床で新しいワイヤロープをウインチへ巻き取る作業を終えて移動しようとしたときに、足を踏み外して後ろの開口部より5.9メートル下のコンクリート床面に墜落した。	418	1	1～ 9
1999	1	10 ～ 11	エレベーターの般器に乗って上昇中に般器の出入口の床先と2階昇降路の床先との間に頭・左腕・足をはさまれた。	214	7	10 ～ 29
1999	5	6 ～	得意先へ軽ワゴン車で配達に行き帰社途中、市道交差点において信号待ちをしていた10tトラックに追突した。	231	17	10 ～

		7				29
1999	5	11 ～ 12	ボイラーの配管から水を張ったステンレス製の桶に蒸気を吹込み水を熱していたが、高さ約1.8mに設置されている蒸気バルブを閉めるためポリバケツを踏台にして左足を乗せ、さらに、右足を桶の縁に掛けたときに桶の縁から右足が滑り落ちたため、下半身及び背部に熱湯を浴びた。	379	9	30 ～ 49
1999	8	14 ～ 15	清涼飲料水自動販売機の補充のため軽貨物自動車で県道を走行中、対向の路線バスと衝突した。	231	17	30 ～ 49
1999	9	6 ～ 7	保冷車(3t)での配送業務を終了し、事業場へ戻る途中で、信号待ちをしていた大型トラックに追突した。	221	17	50 ～ 99
1999	9	10 ～ 11	工場建屋内の通路の交差点で曲がろうとしたときに、バック走行で空パレット4段を運搬してきたフォークリフト(最大積載荷重2.5t)に激突されて、後ろへ転倒し、後頭部を打撲した。	222	6	100 ～ 299
1999	10	8 ～ 9	惣菜製造会社の工場で攪拌機(混合機)によるハウレン草の白あえを製造後、攪拌機からゴムベラで、内容物を取り出す作業を行うときに、回転羽が邪魔になるので同僚が回転羽の位置を変えるために攪拌機のスイッチを入れたため、回転羽と攪拌機本体に巻き込まれた。	162	7	50 ～ 99
1999	9	8 ～ 9	工場1階の餅搗機(直径3.46m、高さ2.36m)の側で、供給側のコンベヤー上の半練り状態の米(約7キロ)及び排出側のコンベヤー上のつきあがった餅のチェック作業中に、供給側コンベヤーの架台下部と餅搗機上の臼(直径47cm、高さ20cm)との間に挟まれた。	165	7	100 ～ 299
2000	8	10 ～ 11	ライトバンで駅にアルバイトの2名を迎えに行き、仕事先であるゴルフ場内レストランに向けて走行中、交差点で一時停止をせずに交差点に進入してきたダンプトラックに衝突された。	221	17	30 ～ 49
2000	8	10	ライトバンで駅にアルバイトの2名を迎えに行き、仕事先であるゴルフ場内レストランに向けて走行中、交差点で一時停止をせずに交差点に進入して	221	17	30 ～

		11	きたダンプトラックに衝突された。			49
2000	8	10 ～ 11	ライトバンで駅にアルバイトの2名を迎えに行き、仕事先であるゴルフ場内 レストランに向けて走行中、交差点で一時停止をせずに交差点に進入して きたダンプトラックに衝突された。	221	17	30 ～ 49
2000	2	16 ～ 17	工場の製麺ラインにおいて、小麦粉を投入する作業の途中で作業場所から 10メートル程離れたスーパーミキサー(解砕機)に近づき、この機械の力 バーを開けて中を覗き込んだためシャフト部分に巻き込まれた。	165	7	10 ～ 29
2000	8	12 ～ 13	炊飯ラインを稼働中に釜の自動洗浄機に異常が発生したのでカバーを外し て内部を見ようとして上半身を入れたときに、釜洗浄機のアームが上昇し てきて頭をはさまれた。	165	7	300 ～
2000	3	11 ～ 12	製粉工場で家畜の飼料となる「ふすま」の梱包作業を開始するため、ふす まタンクの下部に設けられたスクリュウコンベアの動力機構の確認作業等 を行っていたときにスクリュウコンベアに動力を伝達させるシャフトに設 けられたクラッチ部に作業服を巻き込まれた。	121	7	10 ～ 29
2000	6	14 ～ 15	工場から店に食材を配送するためトラックで高速道路を走行中、出口に向 かう車線が渋滞していたので前の車に続いて追い越し車線に出たところ、 前の車が減速したためこれに追突し、はずみで右側壁に激突、さらにその 反動で左車線を走行中の乗用車に接触したのち左側壁に衝突した。	221	17	100 ～ 299
2000	8	14 ～ 15	最大荷重が12tと6.9tのフォークリフト2台でコンテナをトラックシャーシ から地上に卸ろす作業中に、軽ワゴン車が進入してきたので通行させるた め12tフォークリフトのフォークを地上まで下げていたときに軽ワゴン車が 減速せずに走行していきフォークに激突し運転手が胸部を強打した。	222	3	1～ 9
2000	9	22 ～ 23	2tトラックに豆腐700kgを積み国道を走行中、交差点で信号待ちをしてい た11tトラックに追突した。	221	17	50 ～ 99
2000	3	9 ～	製麺機による製麺作業において、機械の内側に付着した原料を掻き落とし ていたときにシャフトに巻き込まれた。	165	7	1～ 9

		10			
2000	9	10 ～ 11	普通貨物自動車(保冷車)で高速道路を走行中、走行車線の大型トレーラーを追い越した直後に、自車がスピンして左側ガードレールに激突し、車外に投げ出されたところを大型トレーラーにひかれた。	221	17 ～ 29
2000	1	8 ～ 9	集荷所において半自動製函機を使用してダンボール箱の組立作業中、機械を駆動するチェーンベルトとチェーンレールとの隙間に着ていたヤッケの左肘部分が巻き込まれたため、ダンボール箱挿入口下部からせり上がってきた金属製のバーとダンボール箱の上部を安定させるフラップガイドとの間に頭を挟まれた。	169	7 1～ 9
2000	9	11 ～ 12	納品を済ませてバイクで県道を走行中、対向車線にはみ出し対向の車と正面衝突した。	231	17 ～ 299
2001	1	15 ～ 16	フレキシブルコンテナに入れた麦ぬか(約500Kg)をフォークリフトを用いて、トラックに積み込み中に、フォークリフトが横転し、運転者が頭部をヘッドガードに挟まれた。	222	2 ～ 49
2001	3	9 ～ 10	麴室において、麴を攪拌する麴手入機下部の羽の向きを変える作業中に、麴手入機フレームが帯電していたため頭部が触れたときに感電した。	162	13 ～ 29
2001	4	19 ～ 20	作業車を事業場内で目撃した者がいないため事業場内を探したところ、事業場内の汚水処理施設の第4曝気槽に沈んでいるのを発見した。	418	10 ～ 299
2001	7	11 ～ 12	工場出入口の木製ヒサシの上にヨシズを取り付けるため、日本酒を入れるプラスチックケース(高さ42cm)を踏台にして下側からヨシズを広げていたときに、足を踏み外してコンクリート床面へ倒れ、頭部を強打した。	371	1 ～ 9
2001	9	5 ～ 6	素麺を作る下拵え作業を行っていて、ミキサー(小麦粉と塩水を混ぜ、こねる機械)に全身を巻き込まれた。	162	7 1～ 9

2001	8	14 ～ 15	工場で作業者が見当たらないことに気づき探したが見つからず、警察及び消防に通報して捜索したところ2日目に排水池で水死しているのを発見した。	713	10	1 ～ 9
2001	7	14 ～ 15	得意先へ納品のため4tトラックで国道を走行中、カーブで対向の大型トラックが中央車線をはみだしてきてその後方に衝突した。	221	17	10 ～ 29
2001	10	11 ～ 12	「生葉コンテナ」(茶生葉置場)横にある作業台(高さ2m35cm)上で「生葉コンテナ」のセンサー監視・調整を行っていて、作業台床開口部(1m77cm×44cm)から墜落または梯子昇降中に転落した。	416	1	1 ～ 9
2001	12	2 ～ 3	サイロで発生した粉塵ダストの運搬中に道路上に粉塵ダストをこぼしたため、懐中電灯を持ち、誘導しながら国道上で回収しているとき、走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
2001	12	11 ～ 12	軽乗用車の助手席に乗り得意先への弁当の配達途中に、信号の無い交差点で左側道路から直進してきた2tトラックと衝突し、車外へ投げ出された。	221	17	10 ～ 29
2002	1	16 ～ 17	会社の所定休日で機械が停止している間を利用して7名で工場内の機械設備の点検作業中、サイロの間にある螺旋階段の手すりの間(高さ80cm、中さ ん無し)から約20m下の地面に墜落した。	413	1	100 ～ 299
2002	1	20 ～ 21	食材を簡易リフトで2階に運ぶため2階にあった搬器を呼んだところ、2階に降ろすべき「ご飯」が載っていたので、再度搬器を2階に移動する操作をした後、自分も簡易リフトで2階に上がるため乗り込もうとして搬器と扉枠との間に挟まれた。	214	7	30 ～ 49
2002	1	23 ～ 24	納豆工場において、煮豆入りのトレーを醗酵室に運搬するために使用する台車の軌道付近にいて、軌道上を走行する台車(一部トレー搭載済み、推定質量約2t)とベルトコンベアのラックの支柱との間に挟まれた。	223	7	100 ～ 299
		11	エレベーターの囲いの無い搬器(150cm×250cm)に商品搬送用のキャスター付コンテナ(幅58×奥行81×高さ155cm)4個と共に乗り込み、エレ			100

2002	4	～ 12	ベーターを操作して3階倉庫に向かう途中、搬器上のコンテナが昇降路のフレームに引っかかって、押し潰されたコンテナが倒れてきてコンテナと昇降路との間に挟まれた。	214	7	～ 299
2002	5	5 ～ 6	軽ワゴン車で米の配達に行き帰社のため国道を走行中、センターラインを越えたため対向車線のトラックが衝突を避けようとして左側電柱へ衝突し止まったところへ軽ワゴン車が衝突し、衝突の弾みで元の車線に戻ったところへ後から走行してきた乗用車が衝突した。	231	17	10 ～ 29
2002	5	0 ～ 1	県道を軽保冷車で走行中、対向のワゴン車が中央線を越えてきて正面衝突した。	231	17	10 ～ 29
2002	6	13 ～ 14	大型トラックにコンテナを積み込み雨から防ぐため荷台上に上りシート掛けをしていたときに、荷台上から地上へ転落した。	221	1	10 ～ 29
2002	6	14 ～ 15	観光バスを誘導するため駐車場前の国道に出たところ、国道を走行していた別の観光バスに激突された。	231	17	50 ～ 99
2002	7	16 ～ 17	農協の倉庫内において、ジャガイモの入ったコンテナ（重さ1.4 t）をフォークリフトで冷蔵庫内へ運ぶため、冷蔵倉庫前に仮置きした後エンジンをかけたままフォークリフトの運転席から離れてバックレストとコンテナの間に入り名札をコンテナに取付けていたときに、無人のフォークリフトが前進してきて挟まれた。	222	7	30 ～ 49
2002	9	14 ～ 15	醤油製造工場で、85℃程度まで加熱殺菌した醤油を貯蔵室のタンク（高さ1.79m、直径1.6m）に投入したのち、タンク上部に設置してある木製足場（幅68cm）に上がり蓋をしようとしたときに、タンク内に転落し全身（頭部を除く）火傷となった。	391	11	10 ～ 29
2002	9	10 ～	きのこの入っているコンテナを生育室にローラコンベアで運びコンテナを出し入れする移載装置（通称棚ロボット）にトラブルが生じたため、その確認作業をしていたときに何らかの理由で同装置のスライドテー	229	6	100 ～

		11	ブルが下降してきて頭部に激突された。			299
2002	10	16 ～ 17	米の入った2段積みのフレキシブルコンテナ（1辺約90cmの立方体、重さ900kg）の2段目のプラスチック製パレットの上（高さ180cm）で、チェーンブロックで吊り上げられたフレコン下部の紐を引いて米を落とす作業をしていて米と一緒に逆さに落ちて米に埋もれ窒息した。	416	1	30 ～ 49
2002	10	16 ～ 17	食品の製造工場でドーンという音がしたため駆けつけたところ、事業場2階の資材倉庫傍にあるエレベーター前で作業者が頭部から出血して倒れていた。	214	7	30 ～ 49
2002	9	20 ～ 21	トラックで飼料を運搬したのち運転手が行方不明になったので捜索していたところ、事務所へ帰る途中の通路横に設置してある汚水処理槽に転落していた。	418	10	50 ～ 99
2002	11	10 ～ 11	製麺の製造が終ったので製麺機械の下部に落ちた製粉等をエアガンを用いて吹き飛ばす清掃作業を一人で行っていて、傍にあった電動モーターの駆動用ギヤチェーンに右手甲を巻込まれた。	165	7	30 ～ 49
2002	11	21 ～ 22	コーヒーの抽出作業で、抽出したコーヒーを貯めるためのステンレス製ストレージタンク（高さ約2.5m、直径2m、容量5.63?）の中に誤って落とした柄杓を拾うため、タンク内の仮洗浄後にタンク内へ入ったところそのまま倒れた。	519	12	100 ～ 299
2002	9	9 ～ 10	雇用保険の手続に行くため自転車で走行中、コンクリート製の車止めに右ペダルが接触したためバランスを崩し転倒した。	362	2	30 ～ 49
2003	2	15 ～ 16	切り餅製造工程の硬化冷蔵庫内部の清掃作業で、脚立上で壁面上部に固定されている冷却ファンの底面をダスターでアルコール払拭していて、脚立の4～5段目（高さ1m42cm位）から足を踏み外し転落した。	371	1	10 ～ 29
		15	ゼラチンカプセルに充填する栄養補助食品の原料を、攪拌（かくはん）機および乳化分散機を上部に取り付けたステンレス製の「乳化溶解釜」で混合し、混合された原料を釜から抜いたあと、釜の内部に付着した原料をゴ			100

2003	3	～ 16	ムベラでかき落としていたところ、溶解釜の蓋(重さ950kg)を持ち上げるための昇降装置のギヤシャフトが軸受けから外れ落ちたために蓋が下がり、釜と蓋との間にはさまれ前胸部を切断された。	162	7	～ 299
2003	7	～ 13	12 1階が倉庫・洗い場・ゴミ置場、2階が事務所・休憩室、3階が調理場、4階が労働者の居住部分となっている鉄筋コンクリート造4階建の建物が全焼し、焼け跡から4階に住んでいた労働者のうち1名が焼死体で発見された。	418	16	～ 49
2003	9	～ 17	16 有機小麦粉使用のうどん製造ラインにおいて、作業終了後に手打式真空ミキサー（ステンレス製・容量約1m3）の清掃作業を行っていたときに、真空ミキサーの投入口（横1020mm、縦450mm）に上半身を突っ込み真空ミキサーと架台との間にはさまれた。	162	7	～ 29
2003	9	～ 10	9 2tトラックに「もやし」を積んで国道を走行中、左カーブの手前で対向の乗用車がはみ出してきたため正面衝突した。	231	17	～ 29
2003	10	～ 6	5 工場内の生麺製造室において、原料である小麦粉と塩水を混合し、こねて生地を作る自動化された機械の稼動状況の監視中に、機械の容器とその枠との間にはさまれた。	162	7	～ 49
2003	10	～ 14	13 弁当の空容器を回収するためバンで走行中、中央分離帯の植木の手入れのため駐車していた2tトラックに衝突した。	221	17	～ 99
2003	11	～ 15	14 餅の生地作りが終了し、機械の中の攪拌（かくはん）羽に付着している餅を取り除いているときに、機械を停止せずに行ったため攪拌（かくはん）羽に腕を巻き込まれた。	165	7	～ 49
2003	12	～ 11	10 4tトラックで駐車場から道路に出たときに、右から来た4tトラックと衝突した衝撃で運転席が前方に傾き、フロントガラスが外れたため、路上に投げ出されて自分のトラックにひかれた。	221	17	～ 99
2004	1	～	17 スクリューコンベアを運転しながら高圧洗浄水で洗浄中、スクリューコン	224	7	1～



		18	ベア内に転落し巻き込まれた。			9
2004	12	11 ～ 12	カットした野菜をオゾン水により自動洗浄をする回転式野菜洗浄機において、内部に付着した野菜を取り除くため右手に水道ホース、左手に内部のドラムを回転させるためのグリップスイッチを持って清掃作業を行っていたところ、内部の回転ドラムに挟まれた。	165	7	30 ～ 49
2004	6	15 ～ 16	パレットに乗せた製品をプラットホームに置くために前進してきたフォークリフトの直前に飛び出し、プラットホームとフォーク上のパレット部分に挟まれた。	222	7	10 ～ 29
2004	5	7 ～ 8	製餡（あん）工場内で製餡作業中、小豆および煮汁の入った貯蔵槽に転落した。	349	11	1～ 9
2004	8	17 ～ 18	清掃の終わった大根の皮むき機を台の上にフォークリフトで乗せる際、安定が悪かったので、被災者がフォークの上に乗って支えていたところ、当該皮むき機がバランスを崩し転倒・落下、被災者はそれを支えようとして当該皮むき機とともに転落した。	222	1	100 ～ 299
2004	5	7 ～ 8	被災者は、精米工場内の第2計量室から第1計量室へ歩いて移動中、第1計量室内から出てきたフォークリフトに激突された。	222	6	1～ 9
2004	9	10 ～ 11	製麺工場において、製麺が終了したので攪拌機内に付着したカスをエアガンで噴いていたところ、攪拌機の攪拌棒（2本）に巻き込まれた。	162	7	300 ～ 499
2004	7	12 ～ 13	しめじ製造工場において、しめじ培養用のビンの入ったコンテナ（16本入り、40×40×9cm）を反転させて菌搔を行う菌搔機下部に落ちていたビンをお拾おうとして、反転稼動部分に挟まれた。	169	7	10 ～ 29
2004	4	0 ～ 1	くず米倉庫において、米の入ったフレコンバッグ（重量約1t）をはい積みしていたところ、4段に積み上げたフレコンバッグが崩れ落ち、その下敷きになった。	611	5	10 ～ 29

2004	6	13 ～ 14	事業場内の庭木の松の木の枝切り作業中に、枝切り用脚立の5段目によって枝切りしていた被災者が、バランスを崩して1.8m下のアスファルト路面に落ちた。	371	1	～ 299	100
2004	2	13 ～ 14	ゴルフ場内の舗装修理を行うため、公用車を用いて自宅から修復資材を運び出し、ゴルフ場に向かう途中、乗用車に追突され、弾みで左助手席側から車外に放り出された。	221	17	1～ 9	
2004	7	20 ～ 21	山車曳きを行っていた際、カーブにおいて曳いていたロープが緩み、前のめりになり足がもつれそうになったとき、急にロープが張ったため体が大きく振られ、張ったロープの勢いでロープより手が放れ転倒した。	379	2	～ 99	50
2004	5	8 ～ 9	冷凍保存庫の電動式ドア（引き戸式）を半開きの状態で、被災者が庫外へ商品を持ち出す作業を行っていた際に、他の作業者がドアをさらに開こうとドアのボタンを押したところ、ドアが閉まり、被災者が挟まれた。	391	7	1～ 9	
2005	7	17 ～ 18	2階資材倉庫から翌日に使用するダンボール等の資材を荷物用エレベーターを使って1階の加工場へ下ろす作業中、2階のエレベーター出入口において2階床とエレベーターの上部フレームとの間に挟まれた。	214	7	～ 49	30
2005	7	6 ～ 7	うどん製造工場の麺殺菌工程で、装置を稼動したまま、機械の脇から身を乗り出し、かご内のうどんを整列させていたところ、かごを移動させるためのチェーンとスプロケットに巻き込まれた。	391	7	～ 299	100
2005	11	11 ～ 12	トラックを運転し交差点を青信号で直進中に、左方より赤信号で進入してきた他のトラックが左後部のアルミコンテナに衝突したため、前方ガードレール及び電柱に衝突して横転した。	221	17	～ 99	50
2005	3	18 ～ 19	野菜のカット加工業務で、野菜を入れるプラスチックのコンテナの箱を洗浄作業中、倒れた。被災者は、発症前に長時間の時間外労働を行っていた。	911	90	～ 99	50
2005	5	11 ～ 12	自動走行で冷凍倉庫から出てきたフォークリフトの左後部と建屋の壁との間に挟まれた。	211	7	～ 29	10

2005	5	3 ～ 4	自動車で行中、赤色点滅信号の交差点に入ろうとしたとき、黄色点滅信号の方から直進してきた自動車と衝突し、その反動で車外に投げ出された。	231	17	～ 299	100
2005	1	5 ～ 6	トラックで高速自動車道を走行中、トンネル内で対向車線の自損事故の影響で停車していた大型トラックの列に追突した。	221	17	～ 49	30
2005	2	8 ～ 9	国道を自家用車で走行中、左側の縁石に乗り上げて横転し、電柱に激突した。	231	17	1～ 9	
2005	9	14 ～ 15	トラックから降車してパイロンのバリケードを移動させていたところ、5度の傾斜があったためトラックが前進し始めてしまい、これを停車させようとトラックの前側を押さえ続けたが停車させられず、ひかれた。	221	6	1～ 9	
2006	2	6 ～ 7	事業場敷地内でエンジンがかかったまま停車中の送迎用ワゴン車（AT車）が動きだしたため、そのワゴン車のドアから運転席に飛び乗ろうとしていたところ、動いた先に駐車してあったライトバンにワゴン車のドアがあたり、ワゴン車のドアとライトバンの間にはさまれた。	231	7	～ 299	100
2006	2	14 ～ 15	被災者は製造を終えた麺帯複合機（麺を製造する為、小麦粉等を水で練ったものを帯状にする機械）の清掃を行うため、圧縮空気が噴き出すノズルを持ち、当該機械を稼働させたまま、作業台と当該機械の間から機械の下部へ潜り込んだところ、麺の材料をロールに押し込む板を上下に稼働させるための動力をモーターから伝える金属製のシャフトの水平に往復運動している部分の先端と機械の脚部の金属フレームの間にはさまれた。	121	7	～ 29	10
2006	2	17 ～ 18	斜面に設けた茶畑で、茶木の植え替えのために、ドラグ・ショベルで斜面の掘削作業を行っていた際に、ドラグ・ショベルとともに斜面を約30メートル転落した。	142	1	1～ 9	
2006	3	11 ～ 12	被災者は麦飯用精麦工程を担当しており、麦に蒸気をかけて平たくつぶすための圧扁機の稼働前点検中、圧扁機背面にある回転軸に巻き込まれた。	165	7	～ 29	10

2006	2	6 ～ 7	被災者は、工場内の製氷室内において氷（アイス管）の揚げ置き作業を行っている際に、後ろ向きにクレーンを操作していたところ、クレーンで吊っていたアイス管とすでに置いたアイス管の間に挟まれた。	211	7	10 ～ 29
2006	4	18 ～ 19	工場内に設置しているエレベーターで荷を3階から2階へ降ろしていたところ、エレベーターの搬器の扉が昇降路に引っかかり、搬器が停止した。エレベーターを復旧させるため、労働者Aが搬器の内部に入り、被災者が3階のエレベーター入り口から搬器内をのぞき、作業の指示を行っていた。その作業中に労働者Aが搬器の扉の引っかかった部分を取り外したところ、搬器が下降し、被災者が搬器と昇降路に挟まれた。	214	7	30 ～ 49
2006	1	6 ～ 7	麺帯機を操作中、麺帯機的小麦粉を練るための攪拌機部分の攪拌棒に接触し、身体ごと回転軸に巻き込まれた。	165	7	50 ～ 99
2006	5	19 ～ 20	国道上り線で、被災者が運転する冷蔵車（3.5トン車）が前方のトラック（8.4トン）に追突し、後続の軽トラックも被災者の車両に追突した。	221	17	30 ～ 49
2006	5	21 ～ 22	一階の精米工場において、パッカー作業（米の袋詰め及びロボットによるはい作り作業）を一人残業して行っていた被災者が、フォークリフトでプラスチック製パレットを15段積んだ状態で、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に体が挟まれ、積んでいたパレットの最上段が当たっているのを精米工場二階の操作室で作業をしていた作業者に発見された。	222	7	30 ～ 49
2006	4	13 ～ 14	被災者はきのこ栽培用蛍光灯の増設箇所の検討のため、脚立に登り計測、確認の作業を行っていたところ、体勢を崩し脚立より床に墜落した。	371	1	10 ～ 29
2006	6	10 ～ 11	被災者は調理用圧力容器（第二種圧力容器）にてサンドイッチ用チキンを炒めた後、番重へ移し変えた。次の工程の圧力釜の洗浄作業に取り掛かろうとしたところ、釜が吹き飛んだ。圧力釜の下部にはジャケット（蒸気により加圧されている）があり、釜とジャケットは溶接により取り付けられ	312	15	300 ～ 499

			ていた。			
2006	7	10 ～ 11	事業場間を移動中の被災者が、隣接するグループ会社の労働者が運転する、空の段ボールを積載し、前進で走行するフォークリフトにはねられた。	222	6	50 ～ 99
2006	8	17 ～ 18	そうめんの原料（小麦粉、食塩水）を練り機で練る工程で、当該工程が間もなく終了する見込みとなったため、機械停止後に練り機の点検・清掃をするよう上司から指示を受け、機械の前で待機していた被災者が練り機の攪拌棒に巻き込まれた。	162	7	50 ～ 99
2006	8	21 ～ 22	ペレットクーラー内のレベル計（流量を調整）に異常が発生したので、被災者と外1の2名で同日の午後8時30分頃にはしごを掛けて補修作業を開始した。補修作業を数回繰り返した後被災者が、はしごから下のふるい（約3m）に墜落した。	391	13	50 ～ 99
2006	8	13 ～ 14	被災者は労働者を軽トラックで会社所有の畑に送った後、畑から会社に戻る途中道路（幅約5m）右端のコンクリート製電柱（会社事務所から約110メートル）に激突した。	221	17	10 ～ 29
2006	8	10 ～ 11	小学校において、給食調理員3名で、本館4階の配膳室の清掃作業中、窓拭きを行っていた被災者が、外側の窓ガラスを拭くために、3階の庇の上へ降り作業を行っていたとき、庇の上から11.5メートル下の地面に墜落した。	418	1	1～ 9
2006	9	18 ～ 19	被災者が2階建て工場建物の北側外壁に沿って設置されていた原材料の野菜やパック詰めされた商品等を入れておくプラスチックコンテナを自動洗浄する機械を使用して洗浄作業をしていたところ、屋上から真空パック包装機械の動力に使用していたコンプレッサーが落下してきた。同コンプレッサーは設置場所を変更するために建築業者によりラフタークレーンを使用して屋上から地上へ降ろす作業の最中であった。	612	4	50 ～ 99
2006	9	14 ～ 15	食材保管庫において被災者を含む労働者2名が天井に設置されている冷却装置のフィルターの交換作業を行っていたところ、被災者が足場として用いていた脚立が倒れ墜落し、コンクリートの床に打ち付けた。	371	1	30 ～ 49

2006	10	23 24	同僚と二人で、帰社の為同僚が運転する自社の乗用車で高速道路から自動車道へ入った。右車線走行中左車線からトラックが幅寄せし右へ回避して、中央分離帯へ接触した。前輪右側のタイヤが破損した為、車道左側の路肩へ停車し被災者がタイヤ交換を行っている最中に、後方から来たトラックにはねられた。	221	17	100 ~ 299
2006	11	1 2	食品工場の屋外の汚水浄化施設において、発生した浄化槽の泡を、ひしゃくを使って取り除く作業を行っていた被災者が、翌日の朝に浄化槽のうちの1つ（縦横5.5メートル×3.3メートル、深さ6.5メートル）の廃液（水深5m）にうつぶせで浮いているのを発見された。	414	10	100 ~ 299
2006	12	12 13	工場通路の蛍光灯が切れていたため、蛍光灯を交換しようとして、脚立をはしご状に伸ばして壁に立てかけ、被災者がはしごに上り、他の労働者1名がはしごの下部を支えていた。被災者が古い蛍光灯を外した後、新しい蛍光灯を取り付けようとしたが、なかなか入らず、はしご上でバランスを崩して、コンクリート床面まで189cm墜落した。	371	1	1~ 9
2007	10	9 10	被災者は事業場内で歩行中に転倒した。帰宅後に症状が悪化し、死亡した。	417	2	50 ~ 99
2007	12	7 8	マイナス25℃の冷凍庫内で原料入り段ボール箱（重量約12kg/個）の下敷きとなって意識のない状態で倒れていた被災者が発見された。被災者は段ボール箱30個（3個×10段）を積載したカゴ台車を引き出そうとしたところ、足を滑らせて転倒し、崩れ落ちてきたダンボール箱の下敷きになったものと思われる。	611	5	30 ~ 49
2007	5	15 16	商品搬送に使用した空ケースを10tトラックに積み込みを行っていた被災者が、トラックの脇に倒れている状態で発見され、入院したが、その後死亡した。	221	1	50 ~ 99
2007	3	3	製麺工場の壁の清掃作業中、アルミ製の作業台に乗り作業していたところ、高さ75cmからコンクリート床に転落した。	371	1	10 ~

		4						29
2007	5	11 ～ 12	工場の荷物搬入口の外で搬送してきたコンテナを3 tトラックの荷台から降ろす作業をしていた時、転倒して搬入口側に頭を、トラック側に足を向けて倒れていたところを同僚に発見された。入院治療中に死亡した。	221	1			30 ～ 49
2007	10	5 ～ 6	ダンボール箱で送られてくる製品を産業用ロボットを使用してパレットの上に運んでいたが、産業用ロボットが動かなくなったため、被災者は産業用ロボットの電源が入ったままの状態、困いのない部分から産業用ロボットの可動範囲内へと入り、パレットを動かしていたところ、パレットを感知するセンサーに体の一部が感知されたため、産業用ロボットが動き出し、アーム先端とコンベヤーとの間にはさまれた。	167	7			100 ～ 299
2007	2	11 ～ 12	豆腐製造工程において、豆乳室の大豆が搬送されるマジックローダー（ホッパー）の清掃を脚立上で行った後、脚立から降りて大豆定量機と生呉（大豆をすり潰したもの）タンクの間を移動中転倒した。	417	2			100 ～ 299
2007	7	16 ～ 17	原料サイロの屋根（トタン屋根）の雨漏りを補修するため、屋根の上で作業していたところ、誤って2.8 m下のコンクリート面に墜落した。なお、屋根に手すりは設置されておらず、安全帯、ヘルメットの着用もなく、当日は、雨により屋根が濡れていた。	415	1			30 ～ 49
2007	6	20 ～ 21	食料品製造工場において、室内に設置されている粉碎機に巻き込まれ、意識不明状態となっていた被災者（派遣作業員）が発見された。当該粉碎機の清掃にあたり、粉碎機の蓋を外そうとしたところ、スライド部分に食い込みが生じうまく開口できなかったため、右足で当該蓋を蹴った際に動いている粉碎機に巻き込まれた。	162	7			50 ～ 99
2007	3	6 ～ 7	早朝勤務後、社有車を工場へ返還するため当該車両を運転中、県道で対向車線へはみ出し、大型トラックと正面衝突した。	231	17			50 ～ 99
2007	4	13 ～ 14	被災者を含む製造工4名で、専用の洗浄機を用いてしょうゆ熟成タンクの洗浄作業中、軌条から懸垂されていた同洗浄機が、軌条の継ぎ目のズレていた部分から脱落し、傍にいた被災者が同洗浄機の下敷きとなった。	391	4			50 ～ 99

2007	8	15 ～ 16	事業場構内に於いて、配送業者所有のトラック（3 t）が製品積み込みのため後進していたところ、左後方に駐車していた自社所有の保冷車（1.15 t）の開放していた左側面扉に接触した。その弾みで扉が閉まり、保冷車に製品の積み込み作業を行っていた被災者がはさまれた。	221	7	30 ～ 49
2007	5	9 ～ 10	軽ワゴン車を運転し弁当を配達中、センターラインを越え、対向車線を走行していた大型ダンプカーと正面衝突した。	231	17	1～ 9
2007	7	6 ～ 7	4 tトラックに食材を積み込み、配達する途中、被災者の運転するトラックが高速道の建設現場に突っ込み、フェンスを突き破り、鉄骨に激突した。	221	17	30 ～ 49
2007	5	14 ～ 15	飼料貯蔵用のサイロ内の底部で、内壁に張り付いている大豆油かすの小山状になった堆積物を棒状の道具を用いて掻き落としていたところ、堆積物が突然崩壊し、生き埋めとなった。	529	5	30 ～ 49
2007	3	1 ～ 2	集中脱葉施設において、被災者が、施設に設置された機械の下回りの管理清掃業務に従事していた際に集中脱葉機トラッシュ移送用ベルトコンベヤーのベルトとローラーの間に巻き込まれた。	224	7	50 ～ 99
2008	12	7 ～ 8	こんにゃくの乾燥工場において、こんにゃくのスライス機の刃の調整作業中にスライスしたこんにゃくを乾燥機へ搬送する金網コンベヤーの駆動部と金ブラシに接触し、巻き込まれて死亡した。	224	7	1～ 9
2008	12	5 ～ 6	被災者は、弁当（朝食用）配送のため、軽トラック保冷車で目的地に向う途中、橋上の路面が凍結していて、スリップし、スピンしてガードレールに衝突して運転席より投げ出されて死亡した。	221	17	30 ～ 49
2008	1	18 ～ 19	立体倉庫棟内の3階に4基の自動搬送装置が設置されており、運転中のNo1ライン上で荷が停止した。被災者は隣接のNo2ラインのコンベヤー内に立ち入り、停止した荷の状況の確認作業等を行っていたところ、一部、手すりの設置されていない箇所から約7.4m下の1階に墜落した。	224	1	10 ～ 29
		14	小学校内で給食用の食器の入ったコンテナの積み込み作業中、トラックの			100



2008	12	～ 15	テールゲートの上で3個目のコンテナを荷台に積み込む時、突然、トラックが前に動き出したため、トラックのテールゲートから墜落して積み込んでいたコンテナが落下してはさまれた。	221	1	～ 299
2008	10	10 ～ 11	被災者は、注文先の事業場に給食弁当を配達するため県道を走行していたところ、対向車線を走行してきたトラックがセンターラインをオーバーして被災者が運転する軽トラックと正面衝突した。さらに、軽トラックは後続のタンクローリー車に追突されて搬送先の病院で死亡した。	221	17	30 ～ 49
2008	8	12 ～ 13	作業者が、工場内で休憩後に作業に戻ったところ、意識を失った。直ちに病院に搬送したが死亡した。	921	90	10 ～ 29
2008	1	10 ～ 11	製麺機を用いて素麺の製造作業中、製麺機内側の淵に付着した練り粉を集めようとしたところ、攪拌棒に巻き込まれた。	165	7	10 ～ 29
2008	2	18 ～ 19	小麦焙炒機のガスバーナーを交換して小麦を入れて試運転の作業中、同機を排気する屋外の煙突から出火したため被災者ら数人が消火器を持って屋根に上り消火しようとした。その際、被災者が天窓のガラスを踏み抜き、約10m下の中2階床に墜落して死亡した。	415	1	100 ～ 299
2008	1	7 ～ 8	事業所で自社の軽トラックに商品を積み込んだ後、商品の納品先に向かっている途中で道路脇の案内標識柱に激突して死亡した。	221	17	1～ 9
2008	7	14 ～ 15	製造工場では被災者がこんにやく殺菌作業中に熱湯の入ったステンレス製タンク（内枠寸法：縦1m、横2m、深さ75cm）の温度調節のため、レバーを解除しようとしたところ、誤って同タンク内に転落して死亡した。	391	11	1～ 9
2008	6	9 ～ 10	鉄骨製架台（重量0.54t）を移動式クレーン（車両積載形トラッククレーン、つり上げ荷重2.52t）の荷台に積み込むため、台付ワイヤロープ（径6mm、端部と端部をクリップで結束したもの）を玉掛に流用して当該移動式クレーンを用いて架台をつり上げたところ、当該ワイヤロープの端部がクリップから抜けたため架台が落下して横倒しになり、付近にいた玉掛け	372	4	30 ～ 49

			者が架台の下敷きとなった。			
2009	8	1 ～ 2	製氷工場において、角氷（58×28×100cm）からダイヤアイス（3cm立方）を製造する機械（アイス・カッティング・マシン）の点検・調整作業を機械を止めずに行っていたところ、誤ってローラー部に巻き込まれた。機械の背面で、氷の選別作業を行っていた作業者が異音に気付いて機械を確認し、はさまれている被災者を発見した。	169	7	30 ～ 49
2009	4	14 ～ 15	被災者が製麺機の清掃をしていたところ、回転していたミキサー部に巻き込まれた。	165	7	1～ 9
2009	7	19 ～ 20	産業用ロボットによるパレットへの荷（重量約16kgのプラスチックコンテナ）積み作業中、被災者がロボットの安全柵下端と床との30cmの隙間から柵内に身体をもぐりこませ進入したところ、ロボットのアームにより運搬されて下降してきた荷にはさまれた。	167	7	100 ～ 299
2009	8	4 ～ 5	本社工場内の炊飯室において、炊飯担当のパート被災者が、炊飯室に設置された食缶反転機と称されるリフトにおいて、使い捨て容器にしゃもじで米飯を盛るため、炊飯釜の蓋を取ろうとしていたところ、リフトのバーと炊飯釜の間にはさまれた。	229	7	100 ～ 299
2009	5	14 ～ 15	茶樹が一定以上成長したために中刈り更新作業を行っていたところ、茶刈り機を操作して茶畑の上方に向かっていている時に茶樹に乗り上げ、前進することができなくなった。被災者は状況を確認するため茶刈り機の前方に回ったところ、ロータリーハンマーに巻き込まれた。	169	7	30 ～ 49
2009	2	9 ～ 10	製餡作業中に被災者が転倒し、作業場内のコンクリート床面に身体を強打した。	416	2	1～ 9
2009	7	2 ～ 3	精米包装室において、自動包装機により精米をフィルムに詰めそれを外装袋に包装する作業を1人で行っていた。被災者は、外装袋を送り込む2次包装機の内部で、外装袋の給袋装置と機械のフレームの間にはさまれている	169	7	50 ～ 99

			状態であるのを同僚に発見され、死亡が確認された。			
2009	3	11 ～ 12	工場3階のうどんを製造するラインで作業を行っていた被災者が、製麺機械である解砕機の底に残っていた麺生地のカスを掃除するため、解砕機側面の中央扉から上半身を機械内に入れ、エアガンにより麺生地のカスを除去していたところ、解砕機が作動し、シャフト部分に巻き込まれた。	165	7	30 ～ 49
2009	12	7 ～ 8	前日に加工した食材をトラックにて配送中、県道の直進道路でハンドル操作を誤り、道路脇の街路樹に激突、後日死亡した。	221	17	50 ～ 99
2009	5	10 ～ 11	被災者は、入金業務のため、事業所から約500mほど離れた銀行へ自転車で向かっていたところ、交差点で左折中のトレーラーに巻き込まれ被災した。なお、交差点信号は車道、歩道ともに青信号であった。	221	17	30 ～ 49
2009	4	13 ～ 14	市道路上を車両系建設機械（タイヤショベル：機体重量1,600kg）のバケツトに土を入れて運搬していたところ、当該機械が横転し、運転していた被災者がその下敷きとなった。	141	2	1～ 9
2010	1	9 ～ 10	年末大掃除でやり残した箇所を単独で清掃していた際に、はしごから床面に墜落し死亡した。災害発生現場の痕跡等から判断すると、被災者は、はしごの9段目前後の踏み面を作業床とし、同工場の東壁面の高さ3.81mの位置に取り付けられた突起物（16cm角、L850cm）の上面に積もったほこりの除去作業中に墜落したものと推定される。9段目の踏み面の高さは床面から2.78mであった。安全な作業床の設置又は安全帯使用等の墜落防止措置が講じられていなかった。	371	1	10 ～ 29
2010	1	11 ～ 12	被災者は、煮沸した豆の充填機のオペレーター補助を行っていたが、昼の休憩前に、機械周りにたまった水を取り除くため、掃除道具（水切り）を道具置き場に取りに行き、戻ってくる途中の通路（水があり滑りやすかった）に於いて転倒し、頭部を強打した。即座に救急車が呼ばれて病院に搬送されたが、翌日死亡した。	417	2	10 ～ 29
			被災者は工場敷地の草刈り作業中、工場内の労働者から簡易リフト修理の依頼を受けたため、作業を中断し、簡易リフトの修理を行うこととした。			

2010	6	15 ～ 16	被災者は高さ1.65mの箇所にある点検口に、同僚に脚立を支えてもらい、上半身を入れ、点検口内の左側にある制御ボックスの点検作業を行った。間もなくして、被災者が「危ない」と言った後、制御ボックスの充電部分に触れてしまい感電した。救急車で病院に搬送されたが、約10日後に死亡した。	214	13	300 ～ 499
2010	7	2 ～ 3	道路において、2tトラックに12.6tトラックが前方不注意により追突し、2tトラックが横倒しになったところに、9.9tトラックが激突したため、2tトラックの運転手が死亡し、同乗者が重傷を負った。9.9tトラック運転手は軽傷を負った。	221	17	100 ～ 299
2010	8	22 ～ 23	被災者は、米ぬかから油を抽出する製造工程において、サイロから抽出プラントに原料を投入する工程の管理を行っていたが、サイロから原料が出てこなくなったため、機械を停止せずに被災者が1人でサイロ上部よりサイロ内のコンベヤを動かしたままサイロ内に入り、固まった原料をスコップで崩していたところ、原料と一緒にコンベヤでサイロ出口まで搬送され、抽出プラントに原料を搬送するスクリーコンベヤに巻き込まれたもの。	224	7	10 ～ 29
2010	10	21 ～ 22	きのこ栽培に使用したおがくずを貨物自動車に積み込むため、おがくずを入れたホッパー（0.92m×1.23m、高さ1.24m）をフォークリフト（最大積載荷重1.45t）で高さ2.24mの位置に上げ、ホッパーからおがくずを貨物自動車の荷台に落とそうとしてホッパーの下部のストッパーを取り外した際、誤って貨物自動車のあおり（高さ2.14m）からコンクリート床に墜落したもの。	221	1	30 ～ 49
2010	11	12 ～ 13	労働者が製品が入庫されずたくさん溜まっていることを不審に思い、コントロールルームのパソコンを確認したところ、40分前に製品の供給が停止されていた。担当であった被災者に確認しようとしたが見当たらないため、自動倉庫内の停止されていたレーンを探したところ、自動倉庫のラックの梁とパレット自動搬送装置に首の下付近を挟まれている被災者を発見したもの。製品入庫時に異常があり搬送装置を手動に切り替え修理しよう	229	7	10 ～ 29

			としたところ、倉庫内は暗く懐中電灯も使用していないことから操作を誤ったとみられる。			
2010	11	1 2	被災者は、自動炊飯ライン担当の責任者であり、炊飯釜の反転機付近で搬送異常が発報したため、現地に行き確認・復旧作業を行っていた。被災者が、当該反転機直下の搬送チェーン架台（高さ約1 m）に上半身を乗り出し作業を行っていたところ、反転機が作動を再開して停止していた釜が下降を始め、当該釜と搬送チェーン架台に挟まれたもの。救出され約15分後に救急搬送され蘇生治療が行われたが、翌日に死亡したもの。ラインの動力を切っていなかった。	169	7	100 ～ 299
2011	7	6 7	給食弁当を配達後、事務所に戻るために国道を走行中、センターラインを越えたため、対向してきた大型バスと正面衝突し胸部を強打して死亡したもの。	231	17	100 ～ 299
2011	3	16 17	コーヒー生豆を加湿攪拌する機械をエアガンを用いて清掃していたところ、攪拌部分に全身を巻き込まれ死亡したもの。	169	7	100 ～ 299
2011	1	22 23	23：35分頃、高さ9 m、直径2.6 mの液体糖質貯蔵タンク内（当日貯蔵率70%）に落下している被災者を、班長が発見した。ただちに119番通報がなされ、レスキュー隊による救出が行なわれたが、0：45分死亡が確認された（窒息死）。単独作業であるため目撃者はいないが、付近の状況から、同タンク上部のマンホールのふたを開け、粉末糖質を、投入しようとしていた時、同マンホールから誤って落下したものと推定される。	391	1	100 ～ 299
2011	5	5 6	被災者は朝6時頃、委託先の厨房へ出勤し、本社へ出勤の電話連絡を行った際に脳梗塞を発症したもの。	911	90	1～ 9
2011	9	13 14	納品先の敷地内で、納品の為に軽トラック運転中、隣車線に停まっていたフォークリフトに積まれていた鋼材（長さ750 cm、幅20 cm、厚さ約3 cmを18枚）に衝突、頭部外傷により死亡したもの。	221	3	1～ 9

2011	4	9 ~ 10	事業主事務所兼自宅の植木が枯れてきたため、栄養剤を散布しようと被災者がフォークリフトを運転し、フォークのパレット上に噴霧器を乗せてパレットを地上から77センチメートル上げたところで、フォークリフトを停止させた。その後、パレットの上に自らが乗り、噴霧作業を行っていたところ、フォークリフト横に倒れて頭部から出血していた被災者を発見した。業務上外については調査中であったが、10月に業務上と判断した。	222	1	10 ~ 29
2011	1	12 ~ 13	フォークリフトにて、一般道路を走行中、中央線を越え、さらに対向車線の縁石に乗り上げ転倒したもの。	222	17	10 ~ 29
2012	1	14 ~ 15	被災者は、資材置き場上で味噌販売用容器（段ボール箱）を収納するため作業中、端部に手すり等が無いため、高さ約3mの作業床の端部からコンクリート床に墜落した。	416	1	1~ 9
2012	4	10 ~ 11	被災者は工場内に設置されたテーブルリフターを使用し、製品を2階から1階に降ろす作業を行っていたところ、搬器が1階に下りていて開口部の状態になっていた2階搬入口（高さ約4m）から1階搬器上に墜落した。	414	1	1~ 9
2012	9	9 ~ 10	被災者は、パレタイザー（18リットル用の一斗缶を16缶、2段積みにし、包装するまでの機械設備）で作業中、自動でコンベアから送られてきた空パレットの位置を直すため、安全柵の内側から設備内に立ち入り所定の位置に直そうとしたところ、上部にある一斗缶をパレットに載せるためのフレームがセンサーに反応したことによりフレームが下降し、センサーとフレームの間に胸部が挟まり死亡した。	169	7	300 ~
2012	11	8 ~ 9	被災者は、キノコの菌床を製造する工場において、攪拌機でトウモロコシ粉などの原材料を混合する作業を行っていた際、攪拌機の天端で袋詰めされた原材料を投入していたところ、誤って稼働している攪拌機内に転落し、粉状の原材料に埋もれた状態で発見された。救急搬送されたが、粉状の原材料に気道を塞がれ窒息死した。	162	1	50 ~ 99

2012	5	5 ～ 6	新茶の確認作業を行っていた被災者が急に「腰が痛い」と言い出し、その後「心臓が痛い」と言って倒れ込んだため、救急搬送されたが、急性大動脈乖離により死亡した。災害時は新茶シーズンの繁忙期であったこともあり、被災者の死亡直前1ヶ月の時間外労働時間は約140時間に達していた。	921	90	30 ～ 49
2012	8	8 ～ 9	被災者はトイレから工場へ戻る途中、重油タンクへの給油を終え、後退してきたタンクローリー（容量14kl）に轢かれた。	221	7	10 ～ 29
2012	1	16 ～ 17	工場立ち上げ担当者として海外へ出張中、滞在先ホテルにおいて突然、胸の痛みを訴え病院へ搬送されたが、同日、心臓性突然死により死亡した。	921	90	1～ 9
2012	5	23 ～ 24	被災者は、工場内の脱臭塔（高さ約30m）において計器類の点検を始めた。終了予定時刻になっても被災者が戻って来ないことを不審に思った同僚が周辺を探したところ、脱臭塔の下で倒れている被災者を発見した。	418	1	100 ～ 299
2013	8	13 ～ 14	被災者2名は、脱穀後の麦殻を処理するため、集塵庫の排出口から麦殻を1階のコンテナに流し込む作業をしていたところ、排出口からの出が悪くなったため、2階の集塵庫内に堆積した麦殻に上がり底部の排出口に詰まった殻を木製の棒でかき落そうとした際、麦殻（付近の深さ約2.5m）の中に転落して全身が埋没し2名とも窒息死した。	529	1	10 ～ 29
2013	8	13 ～ 14	被災者2名は、脱穀後の麦殻を処理するため、集塵庫の排出口から麦殻を1階のコンテナに流し込む作業をしていたところ、排出口からの出が悪くなったため、2階の集塵庫内に堆積した麦殻に上がり底部の排出口に詰まった殻を木製の棒でかき落そうとした際、麦殻（付近の深さ約2.5m）の中に転落して全身が埋没し2名とも窒息死した。	529	1	10 ～ 29
2013	8	16 ～ 17	被災者は、国道のトンネル内を走行中、片側1車線の緩い左カーブを直進、対向車線側の非常駐車帯の壁に衝突した。	231	17	10 ～ 29
			被災者は、椎茸の菌床を2機の高圧殺菌釜に搬入して殺菌後、釜から取り出して放冷室に並べる作業を行っていた。釜の解放により放冷室の室温が			

2013	7	17 ～ 18	急上昇するため、釜を解放後は室温がある程度下がるまで休憩しながら菌床を並べた。被災者は2機の釜を解放して菌床を並べ終えた後に事務所に戻ったが、菌床数を確認のため再度放冷室に行った。その後、放冷室で意識を失って倒れている被災者が発見された。直接死因は、「熱中症」とされた。	715	11	1～ 9
2013	12	15 ～ 16	豆腐の製造に使用した型箱12個を、苛性曹の湯（約1.5立米、約68度、苛性ソーダ約0.5%含有）の曹から一つ一つ引き上げ洗浄中、最後の一つを苛性曹より取り出そうとした際、苛性曹内に転落し首から下全身をⅡ度～Ⅲ度の化学熱傷を負った。	418	11	1～ 9
2013	10	4 ～ 5	炊飯ライン（全自動）において、水平搬送コンベア上で炊飯釜に入った生米、水等を混ぜ、蓋を乗せる工程箇所では当該蓋がコンベアの下に落ちてしまったため、被災者は、次工程の垂直搬送コンベアの覆いの隙間から上半身の中に入れ、当該蓋を取ろうとしていたところ、垂直搬送コンベアが下がってきて、水平、垂直のコンベアの間に胸部を挟まれたことによる心破裂で死亡した。	224	7	300 ～ 499
2013	8	7 ～ 8	被災者は、配送用トラックを運転していたところ、センターラインをはみ出し、対向車線を走っていた路線バスに正面衝突し、全身を強く打った。	221	17	10 ～ 29
2013	11	5 ～ 6	製麺加工用ミキサーを用いて小麦粉と塩水を練ってうどん生地を加工中、蓋を開けて練具合から塩水の分量を目視で確認した後、誤ってミキサー内の攪拌棒に右腕を挟まれたことで上半身がミキサー内に入り込んだ。救出されたが、頸部圧迫による窒息で死亡した。	162	7	1～ 9
2013	5	14 ～ 15	冷蔵庫の棚に保管されているお茶の入った段ボールを取るため、フォークリフトのフォークに差したパレット上に労働者が乗り、高さ4mの棚から段ボール3個をパレット上に乗せた。フォークリフトの運転手は、パレット上の労働者がリフト側を向いて座ったことを確認し、フォークを下げることを了解を得て、フォークを下げ始めた。10～20cmほど下げたところ、パレット上の労働者が背中側から地上に墜落した。	222	1	10 ～ 29



2013	11	9 ～ 10	トラックの運転操作を誤り、道路脇の水路へ落ちた際、胸を打ち付けたため死亡した。	221	17	1～ 9
2013	4	12 ～ 13	事業場の社用車（ワンボックス）にて弁当配達を行うため運転走行中、市道交差点（信号無し）付近を南進していた際、（軽自動車）で東進中の相手方車両と出会い頭に衝突した（双方ともブレーキ痕無し）。	231	17	30 ～ 49
2013	5	11 ～ 12	勤務場所である冷凍倉庫内で、立ち乗りタイプのフォークリフトを使用して作業を行っていた被災者は、フォークリフトをバックさせた状態で、冷凍製品を置くための金属製の棚とフォークリフトの運転台の間に挟まれていたところを、出入りの業者に発見された。	222	7	1～ 9
2013	6	20 ～ 21	氷砂糖製造機上に設けられている蜜投入用のバルブを閉止後、機械上の端を歩いて操作盤方向に戻っていたところ、機械内に墜落し、回転体（1 r p m）に右足を巻き込まれた。尚、被災時の目撃者はいない。	165	7	10 ～ 29
2014	12	8 ～ 9	被災者は、冷却器のメンテナンス作業を行うため、約4mの高さにある冷却器設置場所に上り、作業中、冷却器設置場所の周囲には柵が設けられており、その一部が開閉式となっていたが、柵の留め具が破損し、代わりに紐で留められていた為、被災者が柵に寄りかかったところ、柵の紐が切れ、柵が解放された部分から墜落した。	416	1	50 ～ 99
2014	12	7 ～ 8	ミキサーでこねたうどんのかすを取除く際、被災者が作業台に乗り、投入口を上向きに戻していたところ、攪拌軸に全身を巻き込まれた。	165	7	10 ～ 29
2014	12	15 ～ 16	運搬機械でなめこ瓶の入ったコンテナをコンベアに移し替える作業中、機械がトラブルで停止し、機械の電源を切らずに復旧作業を行っていたところ、機械が稼働し、アームとコンベアの間で首がはさまれた。	229	7	10 ～ 29
2014	11	14 ～	フレコンバッグに米を充填中、フォークリフトのフォークにフレコンバッグの吊りベルトを掛けようとした際、充填中の米がこぼれ出し、被災者がこれに対処するため、フォークの前に出ようとしたところ、フォークリフ	222	6	1～ 9

		15	ト運転者が踏み込んでいたクラッチを上げ、前方に動いたフォークリフトのフォークが被災者の腹部に激突した。			
2014	10	12 ～ 13	生そば製造ラインにて、生そばを製造中、食品加工用混合機に巻き込まれ、死亡した。	165	7	30 ～ 49
2014	8	15 ～ 16	肥料用発酵材を乾燥、粉碎等を行う設備のピット内の粉碎機に過負荷エラーが発生し、被災者は粉碎機の設置せれているピット内に入り、粉碎機のモーターのVベルト等を外す作業をしていたところ、一酸化炭素中毒により低酸素脳症で死亡した。	514	12	1～ 9
2014	8	9 ～ 10	工場内の壁に立てかけてあったロールシャッターの部品を廃棄しようと、フォークリフトの爪に載せようとした際、ロールシャッターの部品を壁から身体に引き寄せ、爪の上に寝かせようとしたところ、荷とともに仰向けに倒れ、床面に頭部を打ち付けた。	612	2	100 ～ 299
2014	8	11 ～ 12	工場内の清掃作業中、ふるいを高温水を用いて洗浄していたところ、被災者が、頭を押さえながら倒れこみ、死亡した。	391	13	50 ～ 99
2014	7	15 ～ 16	被災者は、コンテナ反転機の専用足場に上がり作業後、昇降設備を使用せず、反転機の下方を囲む金属板に沿って降りていたところ、金属板上面の縁で足元が滑り、床面に墜落。近接するコンベアの金属板に胸部を強打した。	169	1	100 ～ 299
2014	4	11 ～ 12	製氷工場内にて、製品をリーチフォークリフトでコンベアに置き、フォークリフトを後退させた際、被災者が運転席から身を乗り出していたため、ヘッドガードの主柱とせり出した壁の間に頭部から胸部にかけて挟まれた。	222	3	30 ～ 49
2014	3	16 ～ 17	農用トラクターを運転し、桑畑を耕していた際、畑の端にある溝付近で、トラクターを後退させたところ、後輪が滑り、トラクターが溝の方へ傾き、被災者が運転席から溝へ197cm転落。転落してきたトラクターの下敷きになった。	169	1	1～ 9

2014	3	7 ～ 8	被災者は、食品の配達を行うため、軽ワゴンを歩道に寄せて停車し、荷物を積載後、後部ハッチバックを閉めたところ、後方から軽自動車に衝突された。	231	17	～ 29	10
2014	1	11 ～ 12	同僚が、かかり木の処理のため、作業を中断していた際、かかり木が倒れ、かかり木の下方にいた被災者が下敷きになった。	712	5	～ 49	30
2015	10	15 ～ 16	農家から搬入された茶葉を裁断するための加工場で、周辺の各種関連機械の運転状況を監視していた運転員が、加工場内の通路脇の開口部（傾斜コンベヤーが設置されている開口部、幅0.49メートル、最深部1.35メートル）に墜落している状態で発見された。	414	1	～ 29	10
2015	12	15 ～ 16	砂糖包装用機械の点検・調整作業中に、被災者が当該機械内部にいることに気がつかないまま、共同作業者が当該機械を運転させたため、被災者が当該機械に頭部が挟まれ死亡したものの。	169	7	～ 99	50
2015	8	0 ～ 1	被災者は、反応器の駆動ユニットのメンテナンス作業を行っていたが、勤務終業時刻に被災者が戻って来なかったため、同僚が捜したところ、被災者が当該駆動ユニットのステーター架台部等（約500キログラム）と床に頭部を挟まれ、仰向けに横たわっているのを発見した。なお、災害発生時、被災者は一人でメンテナンス作業に従事していたため、災害発生時の目撃者はいない。	162	7	～ 29	10
2015	2	11 ～ 12	被災者は、割れた窓ガラスの交換が予定されていた箇所周辺の除雪作業を行った。その後、会社の携帯電話を失くしたことに気がつき、一人で除雪した場所に戻って携帯電話を探していたところ、近くの雪壁が崩れて雪に埋まり胸部圧迫による窒息で死亡した。被災者が発見された場所の周辺には高さ2m24cmの雪山（雪壁が崩れた形跡あり）があった。	719	5	～ 29	10
2015	12	9 ～ 10	リフトを用いて原料を2階へ搬送する際、搬器と昇降路との間に原料袋が挟まったため、被災者は搬器を一旦非常停止させたものであるが、その後搬器を下降させたまま搬器内に上体を入れ、原料袋を取り外そうとしてい	214	7	～ 499	300

			たところ、搬器と柵との間に頸部を挟まれたもの。			
2015	8	21 ～ 22	被災者は、米油とノルマルヘキサンの混合液に含まれる結晶化した固体脂・ワックス分をろ過するろ過機内のろ材の補修をしていたところ、ろ過機上部に設けられている点検口より頭、肩及び手がろ過器内部に突っ込んだ状態で発見された。	514	12	100 ～ 299
2015	8	7 ～ 8	コンベアから搬出されるもやしを高さ36cmの作業台の上で検品し不良物を除去している作業中に後ろに倒れ、後頭部を打撲した。隣接ラインの作業者が被災者がいないのにラインが稼働していることで不審に思い覗いたところおおむけに倒れているところを発見し、救急車で搬送されたが病院で急性硬膜下血腫による死亡が確認されたもの。	416	2	50 ～ 99
2015	7	14 ～ 15	工場内において精麦・飼料製造の補助作業を行っていたところ、熱中症とみられる意識障害を起こして、7月15日に死亡したもの。当日の作業は7時50分から12時まで工場内において精麦・飼料製造の補助作業を行い、一旦休憩後、13時から工場内で午前中と同じ作業を行っていた。災害発生時の工場内温度は約38度。湿度は不明。	715	11	30 ～ 49
2015	4	15 ～ 16	キャベツの芯取り作業を行っていた被災者が、転倒した際に床に頭部をぶつけた。帰宅後、病院を受診し頭蓋骨骨折で即時入院となった。翌26日に脳内出血により意識不明となる。30日、0時40分頃死亡したもの。業務上外について現在調査中である。	417	2	100 ～ 299
2015	9	16 ～ 17	醤油を製造するためのもろみを入れてある発酵タンクの攪拌作業を行っていた被災者が、発酵タンク（幅約5m、奥行き約5m、深さ約3.5m）に浮かんでいるところを発見されたもの。もろみ表面の酸素濃度は約12%、発酵タンク周辺の酸素濃度は約21%であった。なお、発酵タンクがある場所には全体換気装置が設けられており、災害発生時は稼働していた。	391	10	50 ～ 99
2016	10	14 ～	顆粒機（砂糖を粉砕する食品加工用機械）の清掃中に右腕が同機械に巻き込まれ、被災し死亡した。清掃開始時は原動機を止めて作業していたが、5分ほど清掃し、途中で被災者が自身で電源を入れ清掃作業を再開したた	165	7	30 ～

		15	め、右腕が巻き込まれた。			49
2016	4	9 ～ 10	被災者はトラック（最大積載量1.5トン）に当日配達予定の弁当が入った段ボールを積み込み後、段ボール箱を計数のために昇降していた際に、トラックの荷台（高さ85cm）又はトラックの後方のステップ（高さ28cm）から墜転落した。	221	1	100 ～ 299
2016	3	16 ～ 17	配達業務のために軽ワゴン車を運転していた被災者が、対向車の大型トラックと正面衝突して、胸を強く打ち、死亡した。	231	17	1～ 9
2016	2	11 ～ 12	事業場倉庫の建設のため、同僚が長さ12mのH鋼の梁（約500kg）をフォークリフトで運搬中、被災者は、梁が揺れて落ちないように手添えしながら移動していたところ、フォークリフトが前後に揺れ、フォークに乗せていた梁が左右に天秤状になったため、被災者が大きく上方に揺れあがった梁を両腕を伸ばして抑えようとした際、当該梁の下敷き（頭部を挟まれ）となった。	222	6	1～ 9
2016	1	17 ～ 18	製品（砂糖）を乾燥、冷却するためのドライヤークーラー（長さ13.1メートル×直径3.45メートル／横向きのドラム型）内部の回転羽根洗浄作業中、側部点検口（横119センチメートル×縦40.3センチメートル）からホースで温水（温度65度）をかけ、こびりついた砂糖を洗い流していたところ、回転羽根に巻き込まれた。	341	7	50 ～ 99
2016	1	8 ～ 9	工場から荷を積んだトラックを運転し、配送作業中。配送業者トラックヤードで一部の荷を下ろすため自動車道を走行している際に、前方走行中のトラックを追い越そうとして、当該トラックの右後方側面に接触し、弾みで中央分離帯及び路肩側壁に衝突してトラックが横転した。	221	17	100 ～ 299
2017	11	8 ～ 9	被災者は、コーヒーのドリップパック製造ラインのサークルフィーダ（コーヒー粉を回転羽根で攪拌する装置）内の清掃をするため、開口部から上半身を入れたところ、酸欠状態になり倒れているところを発見された。当該サークルフィーダ内はコーヒーの品質保持のため酸素濃度が0.	714	12	100 ～ 299

			1%以内になるよう窒素が充填されていた。			
2017	10	12 ～ 13	ふすま（小麦粉の副生成物で家畜の餌）の包装工場において、運転中のパレタイザー（集約されたふすま入りの袋を押し出してパレット上に積み込む機械）の押し出し部の下にこぼれ落ちたふすまを一人で掃除していたところ、押し出し部とフレームとの間に上半身を挟まれた。	169	7	30 ～ 49
2017	10	22 ～ 23	被災者は工場3階にて、1人で食品サンプルの整理を行っていた。被災者が終業時間を過ぎても職場に戻って来ないため、同僚らが探したところエレベーターピット内で倒れているのを発見した。当該エレベーター昇降路の3階扉が開いたままで、搬器が1階に停止した状態であったことから、3階の開いた扉から8m下のピット内に墜落したと思われる。	214	1	10 ～ 29
2017	8	14 ～ 15	県道（中央線のない直線）において、西進していた軽ワゴン車と、東進していたミキサー車が正面衝突し、軽ワゴン車を運転していた被災者が死亡した。	231	17	50 ～ 99
2017	7	6 ～ 7	第一種圧力容器（蒸煮器、胴の長さ2.4m、径1.8m）の中の、だしの抽出を終えた豚骨の骨をならすため、当該容器の蓋を開け、スコップを持ち容器内に入ったところ蓋が閉まり、内部に閉じ込められ、全身熱傷により死亡した。	312	11	10 ～ 29
2017	7	10 ～ 11	食油フレーク製造工程にある貯油タンクにおいて、タンク内部に残っている固形油を取り除く作業を被災者ともう1名の労働者で行おうとした。被災者はタンクの上部にあるマンホールから内部に入り、別の労働者はバケツを取ろうと離れていたが、ドスンという音を聞き、被災者を呼ぶも返事がないため、マンホールに戻り覗くと被災者がタンクの底部で倒れていた。事故後、事業場が行った濃度測定では酸素濃度は11%であった。	514	12	100 ～ 299
2017	5	10 ～ 11	食品加工用混合機の殺菌洗浄後の水滴拭き取り作業を行うため、混合用の羽根を可動させたまま上半身を混合機の窯（内径80cm、深さ90cm）の内部に入れたところ、回転する羽根と窯の内側の間に首を挟まれた。	165	7	30 ～ 49
			うどん生地を製造する機械の周辺で被災者が倒れているのが発見された。			

2017	3	10 ～ 11	当該機械は、うどん生地を自動工程で練った後、ボタンを押すとうどん生地が入っている槽が反転し、下方のホッパーに生地が落下する構造となっている。被災者は、当該機械周辺で一人作業を行っていた。	165	7	100 ～ 299
2017	2	14 ～ 15	被災者は一人で乗用型摘採機を使って、茶樹の整枝作業を行っていた。午後2時47分、被災者が反転した乗用型摘採機の下敷きになっているのを、近くを通りかかった男性が発見した。茶畑の状況から被災者は整枝作業をするため乗用型摘採機に乗って茶樹の畝を後進していたところ、畝の端部の傾斜によって乗用型摘採機が反転し、下敷きになったものと推測される。	169	2	1～ 9
2017	2	10 ～ 11	作業員5名がそれぞれ刈払機を使用して畑の下刈り作業を行っていたところ、1名の頭部に落雷があり、死亡した。	719	13	1～ 9
2018	12	14 ～ 15	災害発生現場において、元請事業場の労働者2名がAタンク内の飼料の清掃作業に従事していた。Aタンクに隣接したBタンクの清掃作業を終えた被災者が来て、スクリューコンベヤーを稼働させたままタンク内に立ち入り清掃作業を行おうとしたところ、スクリューコンベヤーに巻き込まれて被災したものの。	224	7	10 ～ 29
2018	5	16 ～ 17	被災者一人で、工場内において生葉自動コンテナ（以下、コンテナという。適採したばかりの生葉の品質劣化防止のために生葉に送風する機械）の生葉搬出箇所下部に設置されたブラシ（コンテナ内に残った生葉を掃く部品）を修理するため、機械を止めずにコンテナ内に入り、コンテナの搬出箇所に近づいた際に、搬出箇所に設けられたかき落とし装置（コンテナから生葉をかき落とすための装置）の鉄製の可動式バーに巻き込まれたものの。	169	7	1～ 9
2018	4	0 ～ 1	被災者が自宅で倒れているのを家族が発見し、病院へ搬送したが、心筋梗塞により同日死亡した。なお、被災者は所属事業場において、延べ19日、合計140時間以上の時間外労働を行っていた。業務上と認定され	921	90	100 ～ 299

			た。			
2018	1	16 ～ 17	ビート集積場において、ビートを放水により、水路（幅68.5cm、深さ113cm、水深20～30cm）に落とし込む作業を行っていたところ、何らかの要因で水路に転落し、水路内に設置された柵に引っ掛かり、ビートをせき止めている状態で同僚に発見されたもの。水路を流れているビートに押され、柵とビートの間に挟まり、窒息死したと思われる。	418	1	10 ～ 29
2018	1	12 ～ 13	トラックの傍の地面に倒れていた被災者を発見し、病院へ搬送後に治療が行われていたが、死亡したもの。被災者が倒れた状況を目撃した者はいない。発見時の状況は、被災者が使用するトラック（箱型車両）の荷台後部にはしごが掛けられており、荷台の屋根上（高さ2.75m）にはスコップが置かれ、雪が一部下ろされた状態であった。なお、トラックの荷台の屋根上には足跡は一つもなかった。保護帽の着用はなかった。	371	1	10 ～ 29
2019	9	14 ～ 16	1人でフォークリフトを使用して、玄米1080kgの入ったパレット積みみのフレキシブルコンテナの積み替え作業を行っていた被災者が、2段積みみのフレキシブルコンテナの上段が落下し、下敷きになっているところを同僚に発見されたもの。落下したフレキシブルコンテナの下段のフレキシブルコンテナには穴が開いており、周辺には玄米が散乱し、近くにはガムテープがあった。	611	4	100 ～ 299
2019	8	14 ～ 16	被災者は、棚卸の準備作業の一環として、電動移動式鉄製ラックにある帳簿外品にその旨を貼付する作業を行うため、鉄製ラックの間隙内で作業していたところ、約20メートル離れた箇所と同様の鉄製ラックを使用していた別の作業員が、被災者に気が付かず鉄製ラックを移動させたことから、これに挟まり、頭部負傷により死亡したもの。	391	7	100 ～ 299
2019	7	10 ～ 12	きのこのカット・包装ラインにおいて、栽培用の容器を、その容器を複数入れるケースから分離するための装置において、キノコ屑などが原因で、ライン上に異常が生じたことから、本来立ち入ることが想定されていない箇所から体をライン上に突っ込み、ラインの一部が上下に移動する箇所において、当該上下する部分とラインの枠部分に胸部を挟まれ窒息したも	169	7	100 ～ 299



			の。			
2019	6	12 ～ 14	被災者が工場での業務を終了し、帰宅のため駐車場に向かったが駐車場で倒れ熱中症により死亡したものの。	715	11	100 ～ 299
2019	5	14 ～ 16	顧客先に向かうためトラックを運転して片側1車線の国道を走行中、中央線をはみ出し、対向車線を走行してきた大型トラックと正面衝突したものの。	221	17	1～ 9
2019	3	12 ～ 14	被災者は、事業場から配送センターへ製麺を配送するため、当該事業場所 有のバン（ワンボックスの冷凍車）を運転していた。国道を走行中、片側 1車線の左カーブを直進し沿道の立木に衝突して、全身を打撲し、脳挫傷 により翌日死亡したものの。	231	17	10 ～ 29
2020	11	6 ～ 8	製糖所の原料の受入及び付着土の除去を行う施設において、被災者を含む 労働者2名が分担して原料投入口下の原料運搬用ベルトコンベヤー下の泥 の堆積状況の目視点検を行っていたが、被災者が点検から戻らず同僚が被 災者の点検場所を確認したところ、同コンベヤーの下部ローラーとベルト の間に右肩を挟まれて意識を失っている被災者を発見し、死亡が確認され たものの。	224	7	50 ～ 99
2020	10	10 ～ 12	被災者は、肥料用タンクローリー（ポテトジュースと呼ばれる肥料となる 澱粉の搾り汁を積載）を運転し、近隣農家の畑に肥料をまく作業に従事し ていた。タンクローリーが踏切を横断しようとしていたところ、快速列車 （一両編成）と助手席側から衝突したものの。被災者は搬送先の病院で3日 後に死亡した。なお、列車の運転手に怪我はなく、その他、乗客1名が軽 傷を負った。	221	17	50 ～ 99
2020	10	0 ～ 2	被災者は、単独で、精製途中の澱粉と水が入ったローミルクタンクの天井 部分（高さ3.8m）で、攪拌羽根のモーターの歯車部分の注油作業を 行っていたが、異常に気がついた同僚に同タンク内部で心肺停止の状態 で発見され、その後、死亡が確認された。発見時、同タンク天井部分の蓋 （60cm×60cmの開口部）が開いており、同タンク内の底には注油	713	10	30 ～ 49

			用のグリスが入ったバケツが沈んでいた。			
2020	4	10 ～ 12	食品製造ラインの成形機にバット（原料等を入れる容器）を載せようとして成形機のガードに右足脛を打ち付けたことにより、右足脛の皮がめくれ て（右下腿表皮剥離）出血し、後日腸管虚血により死亡する。	165	3	300 ～ 499

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。